

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十六主日礼拝のしおり

2021年9月12日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 116 編:5-9 節

主は憐れみ深く、正義を行われる。わたしたちの神は情け深い。

哀れな人を守ってくださる主は 弱り果てたわたしを救ってくださる。

わたしの魂よ、再び安らうがよい 主はお前に報いてくださる。

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝に導いてくださりありがとうございます。私たちは共にあなたの御言葉をいただいて新しい一週間を始めます。

わたしたちはいろいろな願いをもってあなたのところに来ています。あなたを救い主と信じ、主と仰いでいます。あなたは私たちをよくご存じで、私たちを赦し、私たちの信仰を育て、人々の幸せを作り出し、あなたを待ち望むように、まっすぐに立て上げてくださいます。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヤコブの手紙3章1-12節

わたしの兄弟たち、あなたがたのうち多くの人が教師になってはなりません。わたしたち教師がほかの人たちより厳しい裁きを受けることになることになると、あなたがたは知っています。わたしたちは皆、度々過ちを犯すからです。言葉で過ちを犯さないなら、それは自分の全身を制御できる完全な人です。馬を御するには、口にくつわをはめれば、その体全体を意のままに動かすことができます。また、船を御覧なさい。あのように大きくて、強風に吹きまわられている船も、舵取りは、ごく小さい舵で意のままに操ります。同じように、舌は小さな器官ですが、大言壮語するのです。御覧なさい。どんなに小さな火でも大きい森を燃やしてしまう。舌は火です。舌は「不義の世界」です。わたしたちの体の器官の一つで、全身を汚し、移り変わる人生を焼き尽くし、自らも地獄の火によって燃やされます。あらゆる種類の獣や鳥、また這うものや海の生き物は、人間によって制御されていますし、これまでも制御されてきました。しかし、舌を制御できる人は一人もいません。舌は、疲れを知らない悪で、死をもたらす毒に満ちています。わたしたちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪います。同じ口から賛美と呪いが出て来るのです。わたしの兄弟たち、このようなことがあってはなりません。泉の同じ穴から、甘い水と苦い水がわき出るでしょうか。わたしの兄弟たち、いちじくの木がオリーブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができるでしょうか。塩水が甘い水を作ることもできません。

福音書朗読：マルコによる福音書8章27-36節

イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。

説教：「あなたはメシアです」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は自分中心な世の中に神の国をもたらず救い主、メシアとして、悔い改めて福音を信じなさい、と訴えてこられました。このイエス様のことを「あなたはメシアです」といって信仰を言い表し告白した弟子のペテロに、すぐあとでイエス様は「サタン、引き下がれ！」と厳しくお叱りになっています。いったいどうしたことでしょう。

イエス様は都エルサレムから見ると北にずいぶん行ったガリラヤ湖のある地方でお働きを進めました。弟子たちとさらに北にあるピリポ・カイザリヤ地方を訪ねて旅をしました。イエス様はその途上で弟子たちに「人々はわたしのことを何ものだと言っているか」と尋ねました。これまでのイエス様と一緒に人々の間で働いてきた弟子たちが、群衆の心を知っているのかをお尋ねになっています。彼らはイエス様のことをどのように受け止め告白しているのかを、弟子たちに聞きました。

弟子たちは人々が言っていることを知っていました。イエス様に人々はあなたを洗礼者ヨハネだ、と言っています、旧約聖書で預言されてみんなが待っていたエリヤだ、とか預言者だ、と言っています、と答えました。人々はイエス様から教えていただいたこと、病人が癒されたこと、死人がよみがえらされたこと、汚れた霊が追い出されたこと、パンと魚で養ってくださったことなどいろいろなことを見聞きして、驚いていました。エルサレム中に大きな反響を巻き起こした洗礼者ヨハネが、ヘロデ王に首をはねられたのにまた生き返っておられるのか、旧約

聖書のマラキ書4章に「大いなる日の前に預言者エリヤを遣わす」と書いてあるので、イエス様はそのエリヤではないか、と噂していました。まとめるとイエス様は救いの来る前に道を備えるために来られた方ではないか、と人々は思っていました。

イエス様は弟子たちに大切な質問をしました。「それでは、あなたがたはわたしを何ものだといふのか。」人々がどういっているかを弟子たちがよく知っているのはわかった。では、弟子たちよ、あなたがたはわたしを誰といふのか、という質問です。ペテロが代表して、「あなたはメシアです」と答えました。あなたこそメシア、すなわち神様から特別な使命を受けて遣わされる王として油注がれた方、キリスト、救い主です。あなたこそ待ち望んでいた救い主です。メシア、すなわち救い主を待つために道を備える洗礼者ヨハネや、エリヤや、預言者ではなく、イエス様、あなたこそ私たちが待ち望んでいた救い主です、と答えたのです。

これを聞いたイエス様はこのあと、弟子たちの何人かを高い山に連れて行きました。そこでイエス様は雲に包まれて旧約聖書のモーセとエリヤに囲まれ、神さまからイエス様こそわたしの愛する子だ、これに聞け、という声がするのを聞くことができました。モーセやエリヤは救い主のイエス様が来られる備えをした人々です。イエス様が神の御子、救い主であることをお弟子たちに示されました。その意味ではお弟子たちは正しかったのですね。

皆さんはいかがでしょう。イエス様についてまわりの人々が誰と言っているかご存じですか。耳を開いておられますか。けれども今日もっと大切なことは、あなたはイエス様をどのように受け止めていますか、ということです。イエス様があなたの救い主、メシアという、ということはあなたの人生にとってどんな意味がありますか。イエス様にどのようにお答えなさいますか。

ペテロたち弟子は、イエス様に「あなたこそメシアです」と立派に信仰告白をしました。しかしそのときの荘厳な空気さめやらないうちに同じペテロが「サタンよ、引き下がれ！」と言われています。これはとても極端な、厳しいことばですね。どうしたことでしょう。

イエス様は弟子たちがあなたはメシアですと信仰告白をお聞きになってから、ご自分のこれからの働きについて明らかになさいました。わたしは救い主として苦しみを受けます。エルサレムへ行き民の指導者である長老、祭司長、律法学者から排斥され、殺されます。三日ののちに復活します。イエス様が救い主として来られたのは、私たちの代わりに正しい生涯を送られ、私たちの罪の裁きを代わりに負い、私たちが神さまから罪を赦されて神さまの子どもとしての新しいいのちをうけるためでした。そのために十字架にかけられ、そして復活されたのです。

しかしペテロはメシア、救い主をそのような方と全く考えていませんでした。救い主はあの偉大なダビデ王のように、自分たちを支配してきたまわりの国々を打ち破って支配権を奪回し、逆にまわりの国々を支配する王国をうちたてる偉大な王をイメージしていました。旧約聖書がそのような救い主を待つように言っていると真剣に待ち望んでいました。その真剣さはすばら

しいです。しかしイエス様のことを間違って期待していました。イエス様がこれからメシアとして苦しむとか、殺されるとか、三日目によみがえるとか、初めて聞くいろいろなことに驚いて、イエス様をわきへ引き寄せて、イエス様、そんなことがあってはいけません、とイエス様に忠告を始めています。ペテロは救い主の間違ったイメージをもっていました。このペテロにイエス様は「引き下がれ、サタン！」と言われました。「神のことを思わないで、人のことを思っている」と言われました。

サタン、とは悪魔の親玉です。もっともひどいことですね。しかしマルコによる福音書には1章からずっと汚れた霊、悪霊、サタンが登場します。イエス様は人々の病をいやし、汚れた霊を追い出しました。サタンの働きは人々を苦しめることでした。人々を神様の愛と憐みから引き離し、からだにも心にも痛手を与え続けることでした。汚れた霊もイエス様のことを知っていました。3章11節では「あなたは神の子だ」と言い、5章7節では「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ」と言っています。サタンはイエス様が自分たちよりも権威を持ち、その死と復活によって自分たちの力を滅ぼすために来られたことを知っていたのです。当時の民の指導者たちもイエス様が汚れた霊にまさる権威をもって、病をいやし、悪霊を追い出しているのを見て、イエス様は悪霊の頭のベルゼブルの力を持っているのではないか、とうわさをしました。もちろんそうではありません。サタンの力をご自分の死と復活によって滅ぼすために神の子の権威をもってイエス様は来ておられます。

イエス様はマルコの福音書7章で、人は外から入ってくるものではなくて心から悪い思いが出てその人を汚すと言われました。問題は他の国に支配される復讐を果たすことではなく、すべての人の心からわきあがる悪い思い、みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、どん欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、わるくち、傲慢、無分別などの悪から、人を救い出して新しい歩みをさせることです。イエス様がもたらす神の国とは、そのような国です。人々の罪の赦しと新しい神の子としてのいのちのある国です。イエス様はそのお働きの最初から、悔い改めて福音を信じなさい、神の国が近づいた、と宣べ伝えました。

しかし民の指導者も民も、そしてポンテオ・ピラトもこのことに反対しました。神のことを思わず人のことを思っていました。民の指導者はイエス様が神様の権威を持っている方として認めましたが、この方がユダヤ人の王になると当時の世界の覇権を握っているローマの国からイスラエル全体が危険視をされて滅ぼされてしまう。だから、いっそ内部告発のようにイエス様を差し出して、死刑にしてもらおう、と考えたのです。イエス様の権威に気付किながら、神のことを考えず、人のことを考えています。ローマから派遣されてこの地方の責任をもっていたポンテオ・ピラトという総督は差し出されたイエス様に会い、あなたはメシアなのか、と尋ねました。イエス様はそうですと答えました。ピラトにはわかりました。イスラエルの人々が自分たちの待っていたはずの、ローマ帝国を神の力によって打ち倒してこの世に君臨する神の国をもたらす指導者イエス・キリストを訴えていたのです。イエス様はローマにとっての危険人物です、と告発している矛盾とねたみをピラトはわかっていました。しかし彼らにイエス・

キリストを死刑にすることを許可しました。それはなんと民の訴えに反対して願いを聞かないことで彼らを失望させたくないという恐れからのことでした。兵も、道行く人もイエス・キリストを罵りました。「おまえはメシアではないのか、ユダヤ人の王ではないのか、自分を救ってみよ」とののしっています。十字架でイエス様はこのような、神のことを思わず人のことを思っている人々のために死んでくださいました。

ペテロがイエス様に叱られたのは、ペテロが告白したイエス様こそ救い主、メシアです、という信仰告白の内容を修正するためでした。人のことを思わず、神のことを思う信仰告白へと修正するためでした。

私たちは自分の生活の環境が変われば幸せになると思い、そのような豊かさや自由やさわやかさを与えてくださいと神様に願います。そして幸せを与えてくれる救い主を待ち望みます。イエス様はご存じです。サタンの方に縛られ、心のうちからこみあげてくる罪深い思いや言葉や行いが私たちを不幸にしていること、そして私たちにどんな環境にあっても、耐え忍び、神さまを待ち望み、人々の幸せのために新しい心で威厳をもって生きていく幸せを与えることがイエス様のメシア、救い主としての使命であったのです。人のことを思う自分中心な覇権主義、支配、操作、抑圧ではなく、神のことを思う罪の赦しと新しいいのちを与えるために、イエス様は来てくださいました。

マルコによる福音書はこのあとイエス様がメシアとして救いを完成して下さる歩みを記しています。不信仰な者、傲慢な者、自分の持ち物や財産に心奪われている者に出会いご自分のお与えになる救いをお示し続けました。ペテロが自分の熱意や正義感で何があっても私だけはイエス様に最後まで従う、というときも、あなたはわたしを裏切るが、わたしはよみがえった後さきにガリラヤに行き待っている、と言われました。私たちは不完全で罪深いものです。現実を見て不信仰になり、自分だけは大丈夫だと自分を過信し、持っているものをどうしても失いたくないとかたくなです。イエス様はそんな私たちのために死んでくださり、サタンの方を打ち破ってよみがえってくださいました。このイエス様を、あなたは私たちの救い主です、と告白しましょう。私たちは、内外にある、人のことを思って神のことを思わない神に背いた罪深い時代にあって闘いながら、自分の十字架を背負って、自分のもっているものやいのちまでも奪われ傷つけられてもいとわないで歩みましょう。イエス様を恥じるのではなく、むしろイエス様に生かされている弟子として、この一週間もちいさないのちにも尊敬をもち、サタンの方を追い出していきましょう。そこからあなたの環境も整えられていきます。あなたこそメシアです、という告白は、イエス様がわたしの罪を赦して新しいいのちを与えて下さると信じる信仰告白です。

そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペテロが答えた。「あなたは、メシアです。」マルコ 8:29

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 339 番

1. 君(きみ)なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて 恵みをたまえ
わが日わが時 わがものみなは 今よりとわに 君のものなり。
3. われの舌をば 救いの主(ぬし)の 恵みを歌う 器となして、
わが唇に よきおとずれを 溢るるばかり 満しめたまえ。
4. 黄金(こがね)、しろがね 知恵も力も 献げまつれば、みな取り用い、
われの心を 宝座(みくら)となして み旨(むね)のままに 治めたまえや。 **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏